

「日本」という国名のおこり

私たちの国の名前「日本」はどのような意味を持ち、
どのようにしてできたのだろうか

●太陽の恵みをいっぱい受ける国

私たちの国の名前は「日本」(ニッポン、またはニホン)です。では「日本」とはどんな意味を持つのでしょうか。「日本」の「日」は太陽のことです。太陽はあらゆるものに光と熱を与え、命をはぐくみます。古代の日本人は、その恵みを自覚し、人間の知恵や力をはるかにこえた、偉大な自然の「気」を感じ取っていたのです。

「本」は「…の元」ということ。ですから「日本」という国名は、607年、遣隋使の国書に「日出づる処」と書かれていたように「昇る太陽の出てくるところの国」という意味になります。

●「倭」から「日本」へ

「日本」という国名ができる前、わが国は周囲の国々から「倭」「倭国」などと呼ばれていました。「倭」という漢字は「ゆだね従う」「背が曲がって低い」などの意味をもち、どう見ても立派な国名とはいえません。

これは古代中国の人々が、まわりのすべての国々を劣った国とみる中華思想に基づき、わが国をあなどる気持ちで用いた国名だったのです。その後、わが国の国内の政治体制が整い、国力も伸び、東アジアの国々の中で重要な地位を占めるようになりました。そして、日本の古来からの歴史を知るにつれ、もっと自国にふさわしい名前があるはずだと、考えるようになりました。

●1300年の歴史を持つ国号

3世紀の邪馬台国の時代から7世紀の初めまで、日本は中国王朝との交渉で服属国のような立場をとっていました。しかし聖徳太子の時代にこれを改め、「天皇」という君主の称号を使い始め、中国に対し自主、対等の姿勢を示すようになりました。これが「日本」という国名への変更にいたる出発点でした。

その後、大化の改新を経て、日本の政治のしくみはめざましく改善されました。7世紀末、それまでの政治改革の成果をまとめた飛鳥浄御原令という法律(689年)が出されました。「日本」という国名が公式に定められたのもこのころと考えられます。中国・唐代の歴史書『旧唐書』にも、国号が「日本」と改まったことが記されています。

それから約1300年を経た今日まで、この国名はまったく変わることなく使われています。中国や朝鮮半島の国々が、王朝が変わるごとに国名が変わってきたことと比較すると、それがいかに特別なことであるのかがわかります。我が国の国名がこの長い間、変わらなかったのは、その間、国がとだえたり、他の民族にとってかわられたりすることがなかったからです。

また「日本」は古くは中国で「ジッポン」と発音されていました。13世紀、マルコポーロの『東方見聞録』にある「ジパング」という国名は「日本」を発音したものです。これがのちの英語の「ジャパン」となりました。